桜　風

合志市立西合志中央小学校学校だより
校訓【健康　工夫　協同】
令和６（2024）年７月５日　第４号
文責：校長　佐藤　正貴

自分を伸ばすために・・・必要な力は。

今年度の学校教育目標では、最初に「己を磨く」という言葉を用いています。己を磨くとは、自分自身の力を高めることです。単純に国語や算数という学力、あるいは運動や芸術面の向上だけを指しているのではありません。今の自分の力では届きそうで届かない目標に挑戦する力、思うようにならないことを我慢して耐える力、命を大切にする心、他者を尊重する態度、家族を思いやる心、そして何よりも自分を大切にすることを含めて、心を磨くことの方が重要かもしれません。なぜ、自分自身を磨いていく必要があるのかというと、社会に出て自分の力で生き始めたときに、周りとの良好な関係を自分自身で築いていく必要があるからです。私自身、子どもたちを手助けする場面と自分で考えて行動させる場面の見極めは、何年教師を続けていても難しさを感じます。これは、我が子に対する子育てでも同じです。手助けし過ぎると自立できなくなり、放任しすぎると大切な何かが抜け落ちてしまう気がします。２つのバランスを考えながら、一喜一憂、右往左往しているのが現状です。そんな生活の中でも、子育ての１つのゴールは、子どもたちの自立だと考えています。自立の仕方はそれぞれだと思います。答えは１つではありません。しかし、自分の力を含めて、家族以外の周りの力を頼ったり、頼られたりしながら生きていく術を身につけることは、どんな自立にも共通する部分ではないでしょうか。そのために必要だと考えている力を付けていくことを学校では大切にしているところです。

１年生・２年生人権集会の様子

１年生は、学校生活の様々な場面で、そこにかかわった人の表情に着目させる学習でした。場面の絵を使ったり、先生方の小芝居があったりと、子どもたちの学習意欲が継続するような工夫がなされていました。

２年生は、「本当の強さ」について、学級で学んだことを発表し合いました。何かが自分よりできる・できないではなく、人によって態度を変えない人、相手のことを考える事ができる人が、本当に強い人だと学んでいました。人権教育の大きなテーマは、生涯に渡って学び続け、自分自身の生き方を問い続け、考え続けることです。

教職員の人権教育

我々教職員は、毎年様々な人権問題に関する研修をしています。講師の話を聞くこともあれば、自分のことを話すこともあります。研修の中にレポート研修というものがあります。１年間の取組を振り返りながら、人として、また教職員としての有り様を考え続けるため実施しています。昨年度、私は教頭時代の事を思い出して書きました。その一部を紹介します。

･･･教頭の仕事と子どもの対応については似ていることがある。例えば、学校の戸締まりである。夕方の戸締まりは、できるだけ早く済ませたい。多くの鍵は素直に閉まる。しかし、中には言うことを聞かない鍵がある。そんな時、イライラしてしまう。まずは力ずくでやってみる。それでも言うことを聞かないときは、力がどんどん強くなる。そんなことを繰り返していると、不意に素直に閉まるときがある。ちょっとだけ隙間を空ける、少し持ち上げてみる、優しく押してみる等、少し方法を工夫するだけで閉まることがある。そうして校内の鍵の特徴を知っていく。時には、先生方から閉めるときのコツを聞けることもある。･･･

私自身、教員になったばかりの時は、自分の範疇に収まりきれない児童に対して力ずくの指導でした。そこから多くの経験をさせて頂き、数多くの個性豊かな子どもたちと出会ったことで、今の自分ができあがっています。人の事を知ること、物の扱い方を知ること、「知る」ということは、自分の心を穏やかにします。そして、そのことは周りのことを考えた言動につながると思っています。相手に合わせた対応というのは、そう簡単ではありません。だからといって何もしなかったり、力ずくでやったりしても何も変わりません。自分自身で対応を考え、試してみる事でしか自分自身の心のゆとりは持てないということを先生方に伝えたかったのです。個性豊かな子どもたちに対応するためには、教師自身が自分の範疇を広げていくことが大切だと考えています。